

★安心安全な学校方向性ニュース(生徒のみなさんへ・保護者のみなさまへ)

3つの安全確認

私は、時折「教員の一番大切な仕事は何ですか？」と生徒たちに問いかけます。すると、「勉強を教えること」という答えが返ってくることが多いです。もちろんそれも大切な仕事です。しかし、それ以上に大切なのは、生徒のみなさんの命を守ることにあります。朝各ご家庭を「いってらっしゃい」と送り出していただき、帰ってきたとき「おかえり」と迎えていただくまでの間、みなさんの安全をお守りするのが大前提となります。そのための3つの大事な点に関して、お話しします。

①病気から身を守る・・・新型コロナもそうですし、インフルエンザなど怖い病気はあります。どう頑張っても感染してしまうことはあるのですが、できるだけ自分のことを自分でも守ってほしいと思っています。マスク着用や三密を避ける行動など個人でもできることもあると思います。もちろん、学校としても対策は取っています。君たちが使った後の、教室などの消毒や消毒しづらいバスケットボールなどは、「効果がある。」という学者の説もあるのを信じて・・・せめてもの消毒として天日干しもしています。授業の際にはモックルガードも活用させていただき、トイレ掃除などは教員で行っています。

そういう中でも東京都の感染者数が100名を超えるなど、まだまだ心配は続きます。もし万が一、発熱等のかぜ症状が出た際やご家族に陽性患者が出てしまった際には、いち早く詳しい情報をお知らせいただくとともに、保健所の指示に従ってしばらくの期間登校は控えて下さい。

②自然から守る・・・梅雨や台風の時期です。先日も、台風並みの突風が吹き、下校時間を少し遅らせました。今回はタイミングがまだよかったので、ラーニングルーム待機の対応ができましたが、登下校中に天候が急変する可能性もあります。軒先をお借りするなどの工夫をして下さい。また、大雨の時は視界が悪くなりますので、みなさんの姿が自動車から見えにくい場合もあります。安全な場所に待機することも考えて下さい。

この時期は熱中症も心配です。適切な水分補給・塩分補給・生活リズムを正しくするなど、自分でもできる対応を行ってください。学校としても、体育の時間用にグラウンド隅にテントを用意して、日陰での休憩を多く挟みながら対応しています。

③人から身を守る・・・本来、学校は「人を信じなさい」と教える場所なのですが、なかなか現実にはそのような社会になっていないのが現状です。もちろん大半の人は正しく生きておられるわけですが、一部には、人に危害を加える人がいるのも現実です。先日も同じ日の同じような時間に別の場所で別の犯人による不審な行動があり、片方は「車で送ってあげるから乗りなさい」と声をかけられたようです。もし、そういう場面に遭遇したら、車の車種やナンバーを覚えておいたら覚えておいてください。ただし、本当に危険な場合は逃げることを優先したり、場合によっては民家に駆け込んでください。先日のケースでは、不審者情報をミマモルメで配信し、警察や教育委員会にも連絡を取り、教員が登下校時間にパトロールを行いました。登下校の際には、できるかぎり複数で行動するように心がけて下さい。

★西中プライド(あなたには必ず良いところがある!!!)

昨日発行した学校だよりの7月号に、保護者のみなさま向けに、「わが子の一番好きなところを教えてください」とお願いしたら、さっそく2名の方から返信がありました。あなたの良いところを、ご家族はちゃんと見て下さっているのです。もしかして、「自分には良いところなんか無い。」と自信を失っている人がいたとしたら、それは大きな間違いです。必ず良いところはあるし、それを信じて、良いところを増やしていけばいいのです。また、あなたの「良いところ」に気が付いてくれている、ご家族や友達や先生が必ずいます。自信を持ってください。

ご協力いただいた保護者のみなさまありがとうございました。今後も募集していますので、ほかの方々もどしどしご返信ください。

今回ご返信いただいた保護者からのお手紙より・・・

●**純粋な気持ちで人の心に寄り添えるところが大好きです。**

●**何事にも一生懸命！友達思い！素でオモシロイ！愛嬌がある！**

西中生のみなさん、自信を持って前を向いて進もう！！君たちの前途は洋々です！！

花植えボランティア

昨日10時から花植えボランティアの方々3名来てくださいました。花壇の草抜きをして下さり、花壇がずいぶんすっきりしました。西中学校生徒たちはすごく穏やかで優しい子が多いのですが、こうやって緑に囲まれたり、地域のみなさまの温かいまなざしに囲まれていることも、西中生の成長の大きな助けになっていると思っています。**お手伝いいただいたボランティアのみなさま、ありがとうございました。**

★アラビアンナイト(千夜一夜物語)

アブダビ編 season1 クライマックス

長々書いてきたアラビアンナイトですが、さすがにそろそろネタも厳しくなり、シーズン1はここで終了とします。

ん？シーズン1???

ということはシーズン2があるのか？あるのです……。それについては次回以降乞うご期待で!!! 砂漠に関する話は、キャンプやらドライブやらいろいろしてきましたね。しかし、これからする話はたぶん市販のツアーでは味わえない世界です。現地に住む日本人。いや探求心旺盛で学びに積極的な日本人学校教員の中で密かに引き継がれている情報です。

ある休みの日に、我々日本人学校教員は数台の車で連れ立って砂漠ツアーに行きました。

街中を出てしばらく走ると、20年前のUAEでは左右に何も無い世界が広がって見えました。人もビルも草木さえもない見渡す限り砂の世界。

その中を、アスファルトの道路だけが続いていきます。地図がなくとも迷うことはありません、一本道がずっと続くからです。かなり走ると、片側に広大な白い風景が出てきます。しかも水があるような世界。「UAEに大きな湖あったっけ？」そう悩んでいると、先輩の先生が、「あれは塩の結晶が浮き出てる場所

だよ」と教えてくださいました。「真っ白い」のは塩の結晶。水に見えたのは光で輝いているからでした。ボリビアにウユニ塩湖というものすごく美しい場所がありますが、あのような風景が広がっているのです(あそこまで美しくはないですが)。

その先を進むと、道の左右には様々な色合いの砂漠が現れます。白い砂漠、黄土色の砂漠、灰色の砂漠、赤茶けた砂漠。黒っぽい砂漠。様々な色合いで私たちを楽しませてくれます。

我々の旅行の目的は二つでした。

その一つは、デザートローズ。「砂漠の薔薇」です。赤茶けた砂を大きなスコップで掘ると、「砂漠の薔薇」というものが現れます。薔薇といっても植物ではなく、鉱物です。簡単に言うと、地面の中の硫酸カルシウムや硫酸バリウムの結晶です。その結晶がバラの花びらのようなのでそう名付けられました。

もう一つの目的は「鳴き砂」でした。鳴き砂といえば日本の砂浜でも体験できます。砂浜を歩くと、「きゅっきゅっ」と音がして、それはそれで風情があるのですが、アラブ版鳴き砂はスケールが違います。我々はおのおのの4WD 車で砂漠の砂丘の上に登り、そこでマニュアルトランスミッション車のシフトギアを N (ニュートラル) に入れ、エンジンを切り、サイドブレーキを外して、斜面の勾配だけで車を滑り落としていきます。そうすると、砂漠の斜面に「ごおー」という山なりの音が響きます。まさに山が泣いているという表現がぴったりくるような音が響き渡ります。私が UAE で見た光景で、最も感動した瞬間でした。

実は写真やビデオをたくさん撮ったのですが、デジカメがまだ出始めて持っていなかったもので、紙に現像している写真しかなかったり、一部テープが劣化したり、機械もないので再現できなかったりということ、あの音を感じてもらえないことがものすごく残念です。

ちなみに「デザートローズ」も「鳴き砂」も砂漠ならどこでも見られるものではなく、広大な砂漠の「どこに行けばそれを体験できるか」が重要な情報です。

当時、アブダビ日本人学校に文部省(現在でいう文部科学省)の人たちがお客様として来られました。そのときに、この鳴き砂に関する授業を行ったのですが、大変好評でした。自慢話になりますが、文部省の新聞にまで取り上げられるほど評価していただき、うれしかったのを覚えています。

例えば、アブダビ日本人学校の松原澄規教諭の「砂について調べよう」(小学校四年生)は、砂漠キャンプという体験学習を踏まえつつ隣接するインターナショナルスクールとの交流授業に発展する系統性、一貫性のある教育活動であり、総合学習としても、地域の素材を生かした観察学習としても、教育課程の中にしっかりと位置づけられた国際理解教育としても高く評価できるものでした。向席していました東京工業大学教授赤堀侃司先生も感嘆の言葉を何度も何度も発しておられました。

